

日本学術会議
子どもの成育環境分科会（第25期第4回）
議事録

日時：令和3年11月1日(月) 18:00～19:00

場所：遠隔会議(zoom)

出席者：山中（委員長）、西田（副委員長）、相澤、北村、浅野、伊香賀、大倉、神尾、齋尾、定行、都築、湯川、吉野、水口（敬称略）

冒頭に山中委員長から、本日の議事（傷害サーベイランスの項目の検討）について説明があり、続いて、産業技術総合研究所の北村光司氏より、傷害サーベイランスの具体的な項目や、データベースの活用事例について解説頂いた。その後、フリー討論を行った。

- サーベイランスの対象年齢は、何歳か？
 - 障害がある場合は、それ以上の場合もあるが、基本は、18歳以下。
- 環境のデータも必要ではないか？ たとえば、温度なども欲しいのではないか？
 - 外気温であれば、日付と時間でわかる可能性がある。
- 熱中症は入っているか？
 - 入っている。
- 季節別の事故発生も分析できるか？
 - 可能であると思われる。病気の場合は、冬の場合はどうかなどもやっている。
- 保護者と医師のそれぞれのアンケートですが、それぞれ、時間はどれくらいか？
 - 5－10分。保護者は、熱心に入れてくれる気もする。一方、医療従事者は、協力しない場合もありそう。
- 傷害サーベイランスは、どの程度、やられているのか？
 - 国立成育医療研究センター、都立小児病院、全国の小児救急病院で実施中である。
- 傷害サーベイランスは、治療に役立つことはあるのか？ 医師のモチベーションアップにつながらないか？
 - 治療に直接役立つことはあまりないかもしれない。役に立ったという情報を伝えることが重要である。
- 医療費の削減効果があるので、予防すべきというエビデンスを出していく必要がある。医療費は、直接医療費だけを見ているが、全体像を見るためには、間接医療費も重要である。
- 建築分野での子どもの分析の例：子どもの怪我と気温の関係に関する先行研究がある。
- 提言案は、分科会すべてに連絡する必要があるなので、2022年の8月ごろが期限である。それを考えると、来年の春には作りたい。

最後に山中委員長から、次回の議題として、子どもの傷害データベースを用いた分析方法について開催したいとの説明があり、閉会となった。